林業普及現地情報
2020-35号（通算392号）
令和３年２月24日
花巻農林振興センター
記述者 鹿野厚子

集約化施業モデル団地における取組支援　～生産性向上に向けて～

１　はじめに

花巻農林振興センターでは、平成29年度から、集約化施業の取組強化を図るため、西和賀町内に集約化施業モデル団地（以下「団地」という。）を設定し、西和賀町森林組合（以下「組合」という。）に対して施業の集約化、森林経営計画の作成等の支援を行ってきました。

団地設定から４年目となる令和２年度に組合では、中堅職員の退職等により経験の浅い若手職員が主力となったことから、間伐等の生産性向上に向けた意見交換を行いましたので、その概要を報告します。

２　意見交換について

意見交換には、普及指導員２名、組合の間伐担当職員のほか、組合長も参加しました。

まず、普及指導員が、林野庁が発行している「生産性向上ガイドブック」を参考に、生産性向上の必要性、生産間伐の工程・生産性の「見える化」とボトルネックの発見などについて、丁寧に説明を行い、共有を図りました。

組合では、団地設定以降、職員が生産性とコストを意識するようになり、どうしたら効率を上げられるかを考えながら作業を進めるようになってきています。

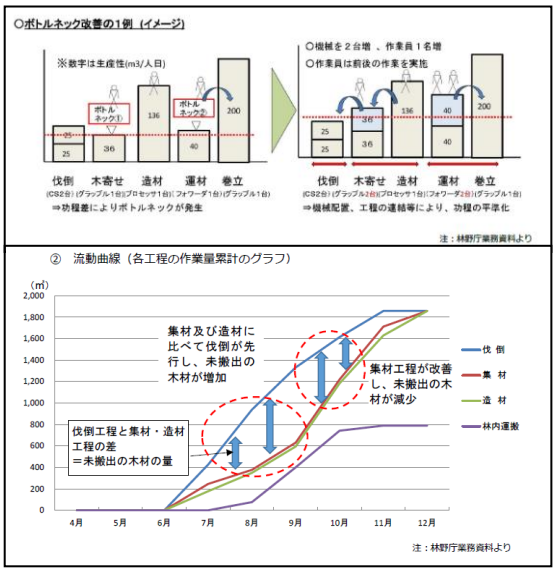
【集約化施業についての職員への指導】

一方で、新たな課題も見つかりました。

ひとつは、生産工程の効率化です。伐倒から搬出まで無駄なく実施する作業システムができていないことや、チェーンソーで伐倒する際にプロセッサが造材しやすい方向に倒す技術が未熟であることなどが挙げられました。

もうひとつは、職員の更なる意識改革です。「どうすれば職員全員のコスト意識を高めることができるのか迷っている」とのことでした。

当センターからは、伐倒から搬出まで工程別の生産性を「見える化」することにより、生産性が低い工程の把握・改善や、職員のコスト意識を高めることが期待できることなどを助言しました。



【指導に用いた資料】

３　今後に向けて

当センターでは、今後も組合の課題解決に向けて必要な研修を実施するとともに、現場毎の目標生産性の設定や職員の意識改革について引き続き指導、助言をしていく予定です。